

2017年度 キャリタス就活 学生モニター調査結果 (2016年7月発行)

第8回調査

7月1日時点の就職活動調査

2017年卒業予定者の採用面接が正式に解禁されてから1カ月が経過し、就職採用戦線は大きな山を越えたようだ。7月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は8割近くに上っていることが分かった。

1. 7月1日現在の内定状況

- 内定率は79.8%。先月(54.9%)より24.9ポイント上昇
- 就職先を決定し活動を終了したのは、全体の58.1%。就活継続中は38.1%

2. エントリー状況、セミナー参加、選考試験の受験状況

- エントリーは平均45.8社。1カ月で2.6社増加するものの、前年度の7割の水準
- 筆記試験12.6社、面接9.3社。前年実績より微減にとどまる

3. 就職活動継続学生の動向

- 選考中の企業は2.3社。今後のエントリー予定社数は平均5.7社
- 見直すことの筆頭は「志望業界の見直し」で49.8%。「職種の見直し」は27.6%
- 就職活動を終わりたい時期は、8月後半までで7割超。就職活動「順調」3割、「苦戦」7割

4. 就職決定企業の規模と志望度

- 従業員1,000人以上の大手企業が7割(70.2%)を占める
- 就活終了者の4割以上(41.7%)が、就活開始当初からの「第一志望」に決定したと回答

5. 就職決定企業の業界

- 文系は「銀行」「保険」「情報処理」。理系は「情報処理」「電子・電機」「自動車」

6. 就職決定企業へのエントリー時期

- 「3月」が67.2%。採用広報開始月への集中度が前年度より上昇

7. 就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング

- 「インターンシップ参加時」が前年より増加し、意識するタイミングが早まる傾向

8. 選考時期の前倒しで生じたこと

- 「短期決戦だと感じた」75.9%、「十分に企業研究ができないまま面接に臨んだ」56.5%

参考データ (大学地域別データ)

調査概要

調査対象 : 2017年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,242人(文系男子398人、文系女子373人、理系男子316人、理系女子155人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2016年7月1日~5日
サンプリング : キャリタス就活2017 学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

1. 7月1日現在の内定状況

7月1日現在の学生モニターの内定率は79.8%。先月調査(6月1日現在)の54.9%から1カ月で約25ポイント伸び、8割に迫る高水準をマークした。これは前年同期(50.6%)を30ポイント近く上回る数字だ。ただ、前年の同じタイミング、つまり選考解禁1カ月後の9月実績(82.3%)と比較すると、やや下回る。ちなみに、4月が選考解禁だった一昨年(2015年卒)の7月実績(79.3%)とほぼ同率である。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了した者の割合は72.9%。6月調査では30.7%だったのが、大きく増加しており、本命企業の選考結果が出たことで活動を終える学生が増えたのだろう。調査時点での就職先決定者の割合は、モニター全体の58.1%となる(グラフは次ページ)。一方で、「内定を得たが就職活動を継続」と「内定なし」を足し合わせた「就活継続者」は38.1%。就職戦線は、大手企業の夏採用や中堅中小企業を主軸に第2ラウンドへと移っている。

7月1日現在の内定状況

*「内定」には、内々定を含む

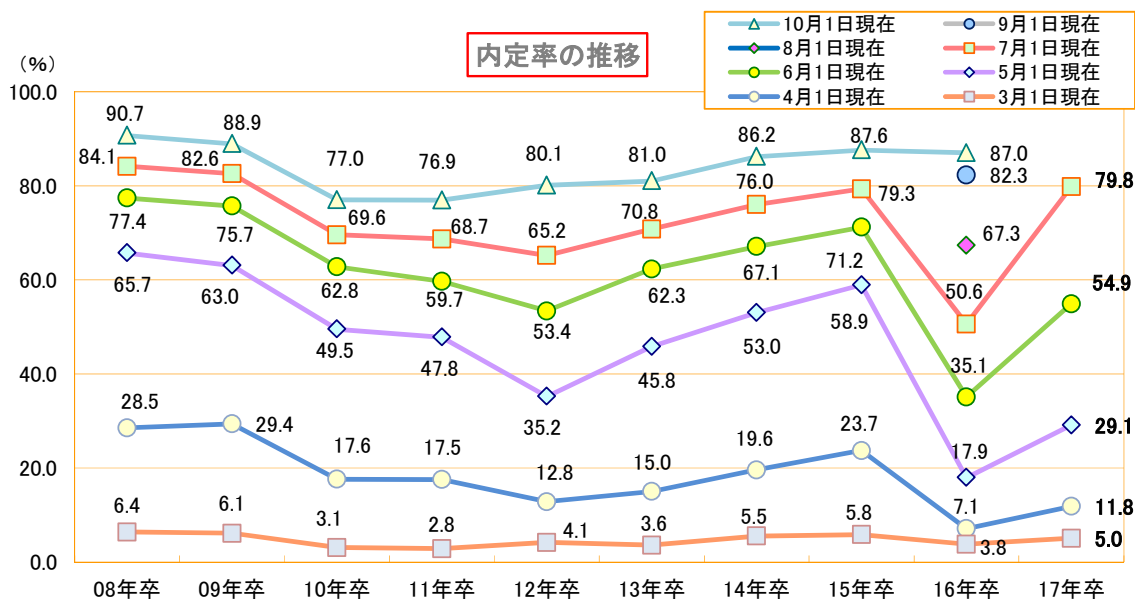
(%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		79.8 (54.9)	74.1 (50.9)	82.3 (56.0)	84.8 (57.3)	78.1 (57.9)
内定なし		20.2 (45.1)	25.9 (49.1)	17.7 (44.0)	15.2 (42.7)	21.9 (42.1)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	72.9 (30.7)	67.5 (21.6)	74.6 (20.5)	78.4 (54.3)	69.4 (31.0)
	活動は終了したが複数内定保持	4.3 (5.1)	5.4 (4.0)	3.3 (4.9)	5.2 (5.5)	2.5 (7.1)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.4 (0.3)	0.0 (0.0)	0.3 (0.5)	1.1 (0.6)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	22.4 (64.0)	27.1 (74.4)	21.8 (74.1)	15.3 (39.6)	28.1 (61.9)

(社)

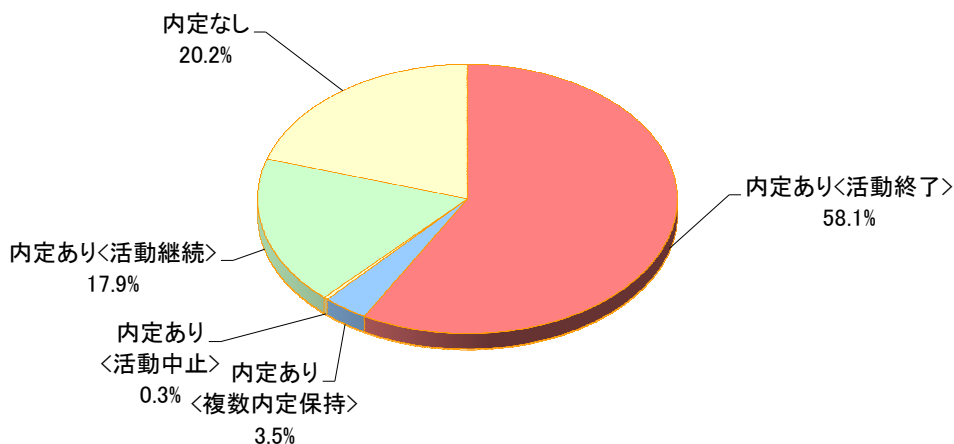
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.2 (1.9)	2.3 (1.9)	2.1 (1.7)	2.0 (2.0)	2.4 (2.1)

※()内は先月(6月1日現在)の数値



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

学生モニターの内定の有無および活動状況



2. エントリー状況、セミナー参加、選考試験の受験状況

7月1日現在の活動量を表にまとめた。一人あたりのエントリー社数の平均は45.8社で、先月（6月）時点の43.2社から2.6社微増した。前年の同じタイミング（選考解禁翌月同士）で比較すると、前年9月は62.0社だったので、3割近く少ない計算になる。今期は3月以降のエントリーの伸びが鈍かったが、短期決戦の呼び声が高かったことなどから、早い段階で志望企業を絞り込んだ学生が多かったと見られる。

企業単独セミナーへの参加社数は17.8社、エントリーシート（ES）提出社数は17.5社で、これらについては前年9月実績（22.7社、19.3社）をやや下回る水準だ。日程圧縮による減少と考えられる。

筆記試験や面接などの選考試験受験社数についてはそれぞれ1社程度、減少した。エントリー社数が大幅に減少した割に選考試験受験社数は微減にとどまることから、早期に企業を絞り込み、結果的に効率よく就職活動を進めた学生が多かったとも言える。

7月1日現在の就職活動の状況

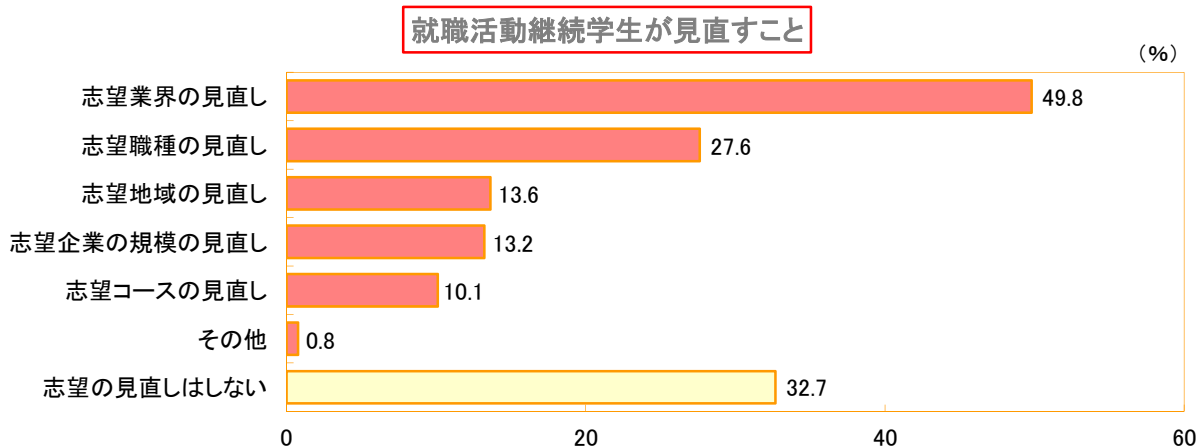
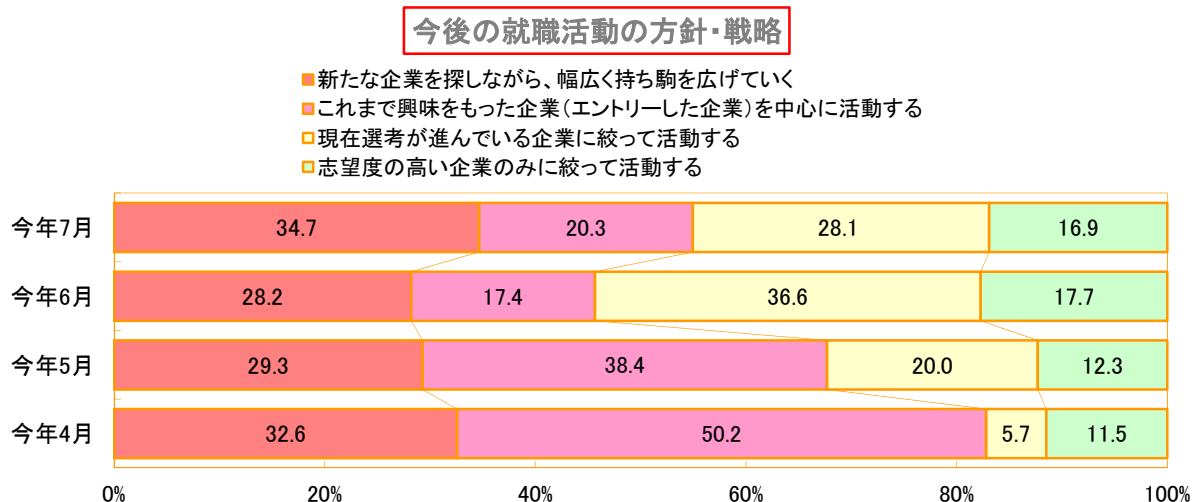
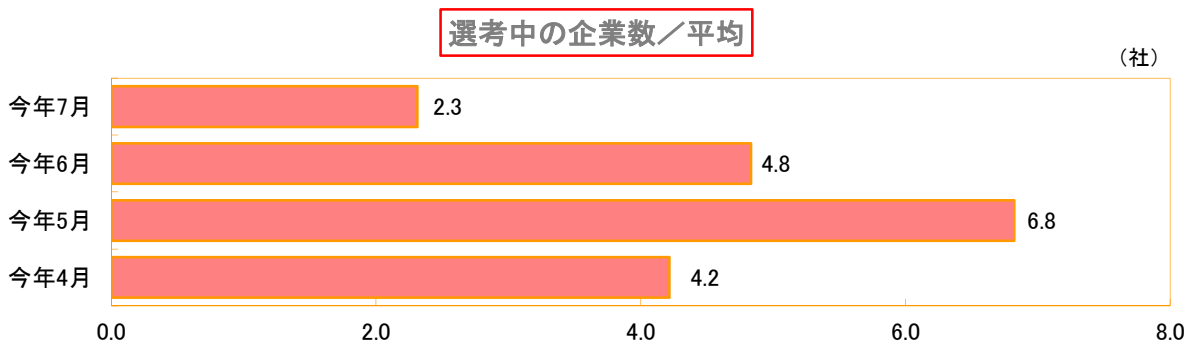
	全体	今年6月	前年9月	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー (社)	45.8	43.2	62.0	48.0	54.3	35.0	41.7
セミナー・説明会参加 (社)	41.6	40.7	53.0	44.6	47.2	33.4	36.8
企業単独開催のもの (社)	17.8	16.9	22.7	19.6	20.6	13.3	15.4
合同開催のもの (社)	12.9	12.8	15.9	14.6	14.1	9.7	12.3
学内開催のもの (社)	10.9	11.0	14.5	10.4	12.5	10.4	9.1
WEBセミナー視聴 (社)	5.7	5.6	7.5	6.5	5.8	5.0	5.1
ライブ中継 (社)	2.9	2.9	4.1	3.3	3.0	2.5	2.7
オンデマンド（録画） (社)	2.8	2.8	3.4	3.2	2.8	2.5	2.4
エントリーシート提出 (社)	17.5	15.9	19.3	18.9	18.1	14.7	17.8
選考試験の受験社数 (社)	25.7	22.6	28.4	28.9	26.8	21.9	22.5
筆記・WEB試験 (社)	12.6	11.4	13.6	14.0	13.2	10.8	10.9
面接試験 (社)	9.3	7.8	10.2	10.6	9.8	7.8	8.1
グループディスカッション (社)	3.8	3.5	4.6	4.3	3.8	3.3	3.5

3. 就職活動継続学生の動向

内定保持者も含め、就職活動を継続している学生（モニター全体の 38.1%）の、現在選考中の企業数は平均 2.3 社。先月（6 月）調査時の半数以下になった。選考中企業の数には 5 月（6.8 社）をピークに毎月減少しており、多くの学生にとって選考の山は 5 月だったことがうかがえる。

今後の方針・戦略を見ると、「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒を広げていく」という回答が 6 月調査（28.2%）から 6.5 ポイント増え、再び 3 割台に。選考解禁後に思うような結果を出せなかった学生が、就職活動を仕切り直し、持ち駒を広げようとしていることが分かる。

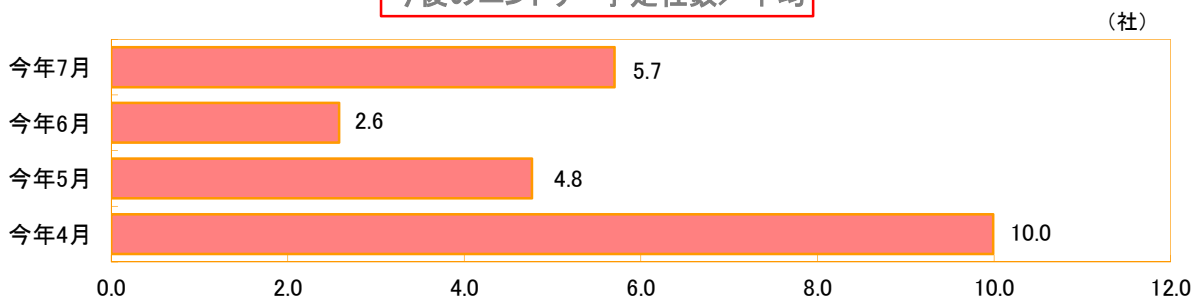
そうした学生に今後見直すことを尋ねると、「志望業界の見直し」が約半数に上り（49.8%）、圧倒的に多い。企業側から見ると、今後は業界研究が浅い印象の学生の訪問が増える可能性があるため、業界理解が進む内容の説明会を開催したり、面接の場でも知識を補ったりするなど、後半戦ならではの情報提供が求められそうだ。



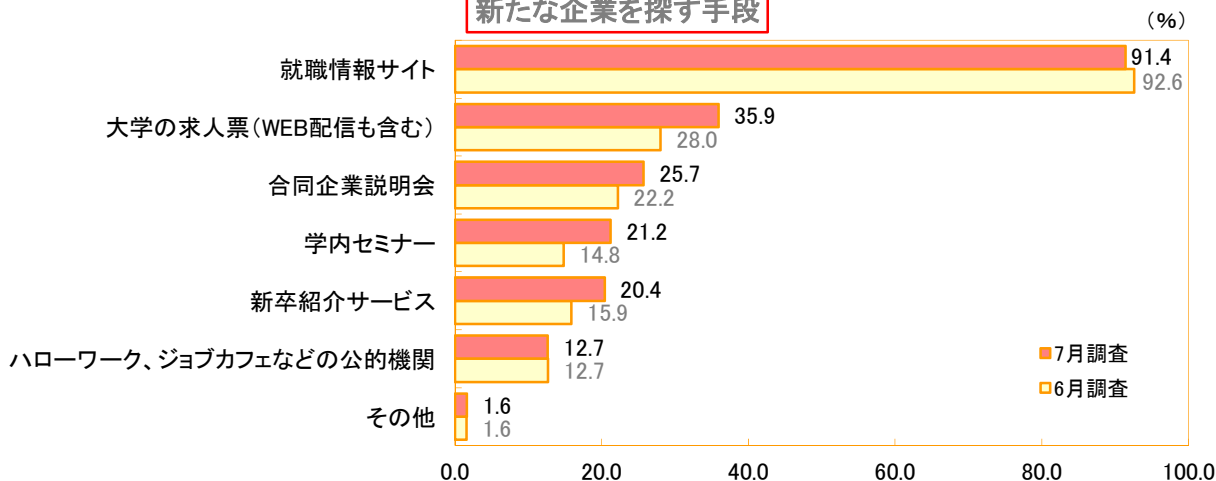
就職活動継続学生の今後のエントリー予定社数は平均 5.7 社。6 月 (2.6 社) を底に再び増加に転じており、前ページで確認した今後の方針・戦略のデータとも合致する。大手企業の選考が一段落し、就職採用戦線は事実上後半戦へと入っているが、就職活動中の学生の多くは自分の現在の希望に少しでも近い企業との出会いを貪欲に求めていることがうかがえる。

新たな企業を探す手段 (ツール) としては、「就職情報サイト」が 9 割を超えており (91.4%)、後半戦も引き続き主要な出会いのツールとして機能していることが確認できる。また、「求人票」「合同企業説明会」「新卒紹介サービス」などは 6 月調査よりもそれぞれ割合が増加しており、様々な手段で企業を探そうと講じている様子が見て取れる。特に新卒紹介サービスは例年後半に利用が増える傾向があり、今後も伸びていくと見られる。

今後のエントリー予定社数 / 平均

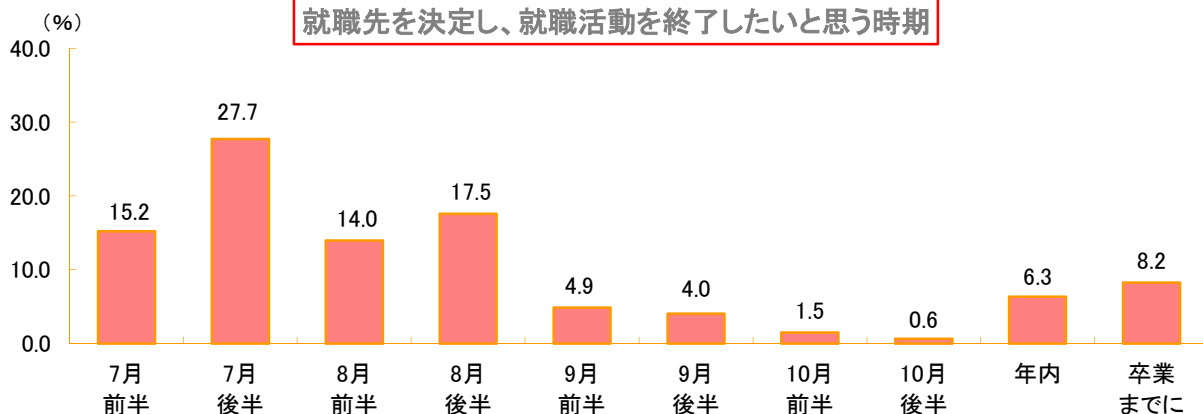


新たな企業を探す手段



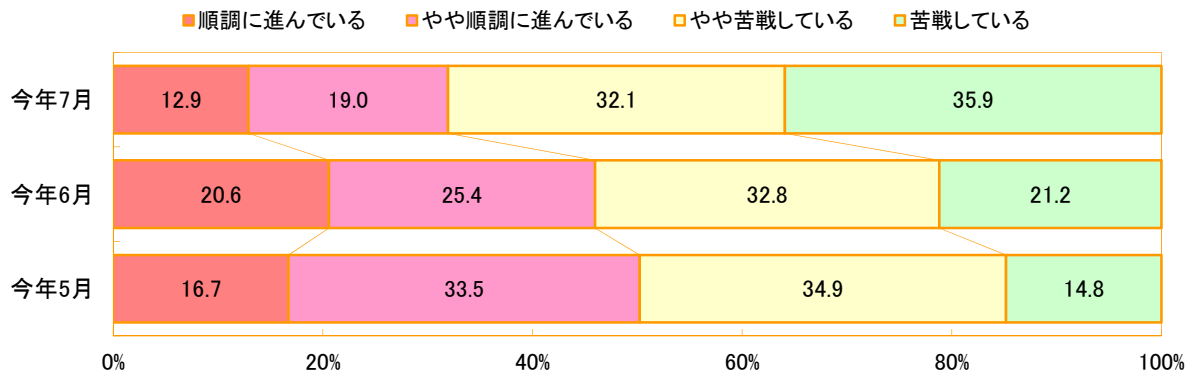
就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期は、「7 月後半」との回答が最も多い (27.7%)。7 月前半・後半の合計は 4 割強 (42.9%) で、8 月後半までを合わせると 7 割を超える (74.4%)。

就職先を決定し、就職活動を終了したいと思う時期



就職活動をしている学生に、自身の進捗度合をどのように感じているかを尋ねた。「順調に進んでいる」との回答は3割ほどであるのに対し(「やや順調」とあわせて31.9%)、「苦戦している」35.9%、「やや苦戦している」32.1%と、苦戦している学生のほうが圧倒的に多い。選考解禁前の5月調査では拮抗していたのが、6月から7月にかけて「苦戦している」が大きく増加した。就職先を決めて早々に活動を終えた学生がいる一方で、なかなか内定の出ない者や納得のいく就職先に巡り会えない者にとっては、厳しい就職戦線となっている様子がわかる。

就職活動の進捗度合



順調に進んでいると感じる理由

- 志望企業の選考時期が遅いだけで、焦っても仕方のないことだから。 <理系男子>
- 当初はとても苦戦したが、徐々に自分を認めてくれる会社に出会えるようになったと感じるからです。 <文系女子>

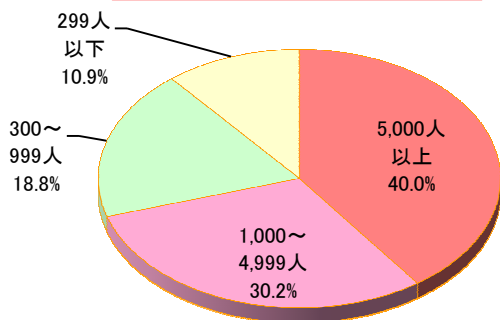
苦戦していると感じる理由

- スタートが遅れたこともあり、自己分析や面接などで劣っていると感じることが多い。 <文系男子>
- 思ったように進まず、周りが就活を終えているなか、新たな企業を探したりしなければいけないため。 <理系女子>

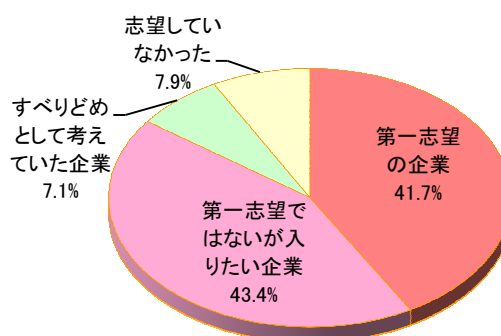
4. 就職決定企業の規模と志望度

ここからは、就職活動終了者(モニター全体の58.1%)のデータを見ていこう。まず、就職決定企業の従業員規模を見ると、従業員数が「1000~4999人」と「5000人以上」の割合を合計すると70.2%となり、大手企業が7割を占める。また、就職決定企業がもともと第一志望だったという者が41.7%に上ることから、本命の大手企業に就職を決めた学生が多かったことが推測できる。

就職決定企業の従業員規模



就職決定企業の当初志望度



5. 就職決定企業の業界

就職決定企業の業界を、就職活動解禁時(2016年3月調査)に志望していた業界と比較してみた。

文系においては、就職解禁時に志望していた業界と、実際に決定した業界の1位はともに「銀行」で、根強い人気と業界自体の採用力を裏付ける結果となった。理系においては、就職解禁時の志望では4位だった「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」が、就職決定業界では1位となった。同業界は、文系でも大幅に順位を上げている(11位→3位)。学生に馴染みがあるとは言えないが、業界全体での採用数が多く、採用活動に積極的な企業が多いため、就職活動を進めるうちに就職先として意識していくケースが多かったと見られる。

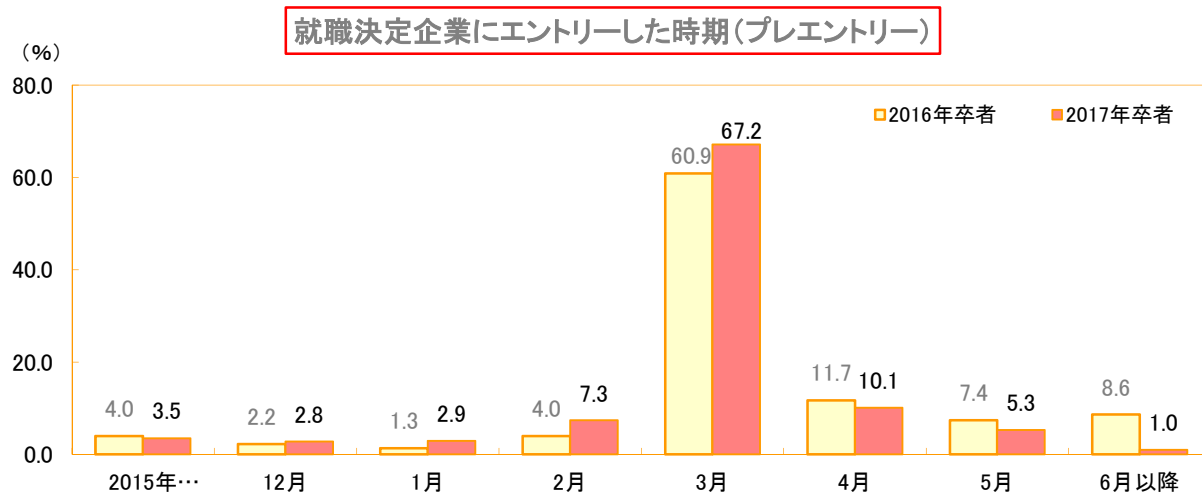
また、理系においては「自動車・輸送用機器」が8位から3位へと大きく順位が上がっているのが目立つ。

文 系			理 系				
就職解禁時の志望業界 (第1志望)	%	就職決定企業の業界	%	就職解禁時の志望業界 (第1志望)	%	就職決定企業の業界	%
1位 銀行	11.5	1位 銀行	14.0	1位 医薬品・医療関連・化粧品	12.7	1位 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.6
2位 マスコミ	9.9	2位 保険	8.2	2位 素材・化学	10.7	2位 電子・電機	11.6
3位 運輸・倉庫	8.7	3位 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	6.5	3位 水産・食品	10.4	3位 自動車・輸送用機器	6.8
4位 水産・食品	5.9	4位 調査・コンサルタント	5.4	4位 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	8.8	5位 素材・化学	6.8
	官公庁・団体	5.9	5位 マスコミ	5.1	5位 電子・電機	6.8	5位 医薬品・医療関連・化粧品
6位 建設・住宅・不動産	4.9	6位 運輸・倉庫	5.1	6位 官公庁・団体	4.8	6位 建設・住宅・不動産	6.1
7位 保険	4.1	7位 建設・住宅・不動産	4.4	7位 運輸・倉庫	4.5	7位 機械・プラントエンジニアリング	5.8
8位 調査・コンサルタント	3.9	8位 電子・電機	4.2	8位 建設・住宅・不動産	4.3	8位 水産・食品	5.4
9位 商社(総合)	3.6	9位 信用金庫・労働金庫・信用組合	3.7		自動車・輸送用機器	4.3	9位 運輸・倉庫
10位 自動車・輸送用機器	3.4	9位 情報・インターネットサービス	3.7	10位 機械・プラントエンジニアリング	3.2	10位 情報・インターネットサービス	3.7
11位 情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	3.0	11位 証券・投信・投資顧問	3.0	11位 マスコミ	2.9	10位 エネルギー	3.7
12位 ホテル・旅行	2.9	12位 商社(専門)	3.0	12位 情報・インターネットサービス	2.7	12位 銀行	2.7
13位 教育	2.6	13位 自動車・輸送用機器	2.3	13位 調査・コンサルタント	2.5	12位 通信関連	2.7
14位 証券・投信・投資顧問	2.4	13位 ホテル・旅行	2.3	13位 農業・林業・鉱業	2.5	14位 鉄鋼・非鉄・金属製品	2.4
15位 素材・化学	2.2	15位 水産・食品	2.1	15位 保険	2.0	15位 官公庁・団体	2.0
	商社(専門)		2.2	教育	2.1	15位 精密機器・医療用機器	2.0
17位 機械・プラントエンジニアリング	2.0	17位 医薬品・医療関連・化粧品	1.9	17位 教育	1.8	16位 調査・コンサルタント	1.7
18位 医薬品・医療関連・化粧品	1.7		機械・プラントエンジニアリング	1.9	エネルギー	1.8	17位 教育
	エネルギー	1.7	エネルギー	1.9	19位 通信関連	1.8	18位 その他サービス
20位 エンターテインメント	1.6	17位 専門店	1.9	20位 銀行	1.4	18位 農業・林業・鉱業	1.4
		人材紹介・人材派遣	1.9			精密機器・医療用機器	1.4
		その他サービス	1.9				
		官公庁・団体	1.9				

※上位 20 業界を掲載
※「就職活動解禁時」は 3 月調査

6. 就職決定企業へのエントリー時期

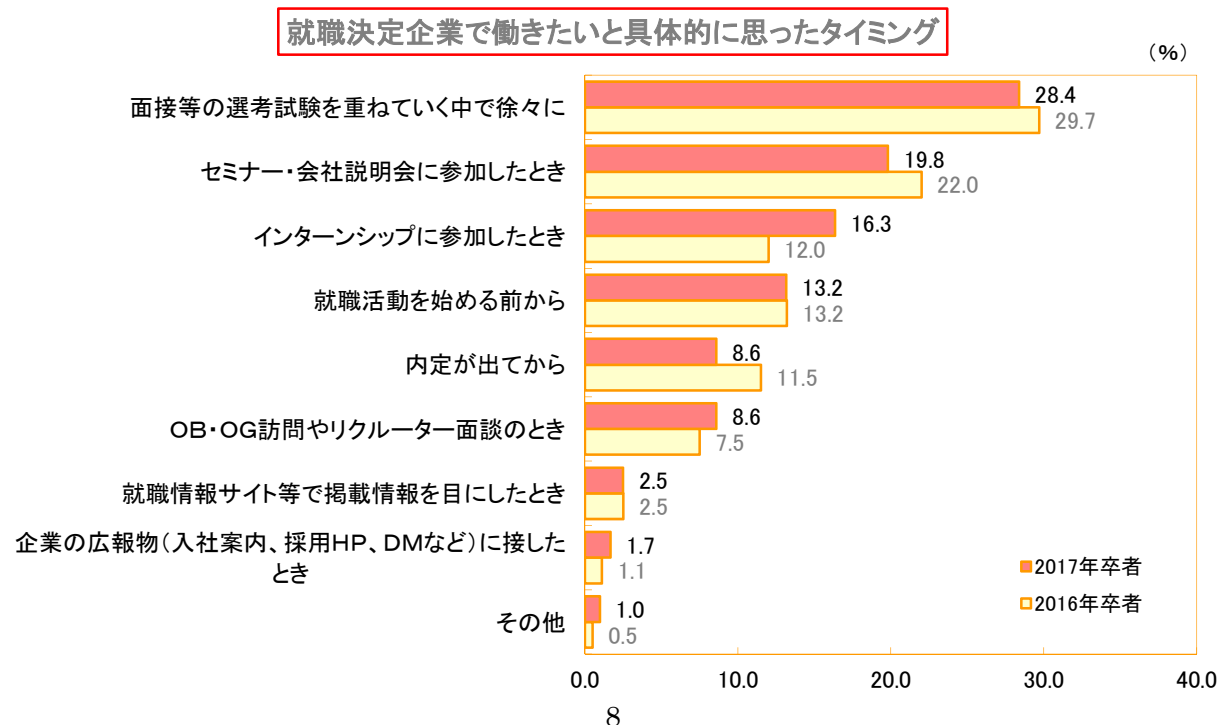
就職決定企業にいつごろエントリーをしていたのかを尋ね、前年のデータと比較してみた。採用広報開始時期の「3月」という回答が今年も圧倒的に多かったが、その割合は60.9%から67.2%へと増加しており、より集中度合いが高まった。現在就職先が決まっている学生の多くは、就職活動解禁当初に志望していた企業を中心に就職活動を行い、そのまま内定に至っている様子が見える。こうした学生を採用したい企業としては、早めの情報公開が望ましいと言えそうだ。



7. 就職決定企業で働きたいと具体的に思ったタイミング

就職決定企業で働きたいと具体的に思ったのはどのタイミングであったかを尋ねたところ、「面接等の選考試験を重ねていく中で徐々に」が前年に引き続き最も多く (28.4%)、次いで「セミナー・会社説明会に参加したとき」(19.8%)が続くが、ともに前年調査よりややポイントは下がった。「内定が出てから」は11.5%から8.6%へと2.9ポイント下がった。

一方、「インターンシップに参加したとき」が前年の12.0%から16.3%へと4.3ポイント伸びており、就職決定企業を意識するタイミングが前年より早まったことが分かる。



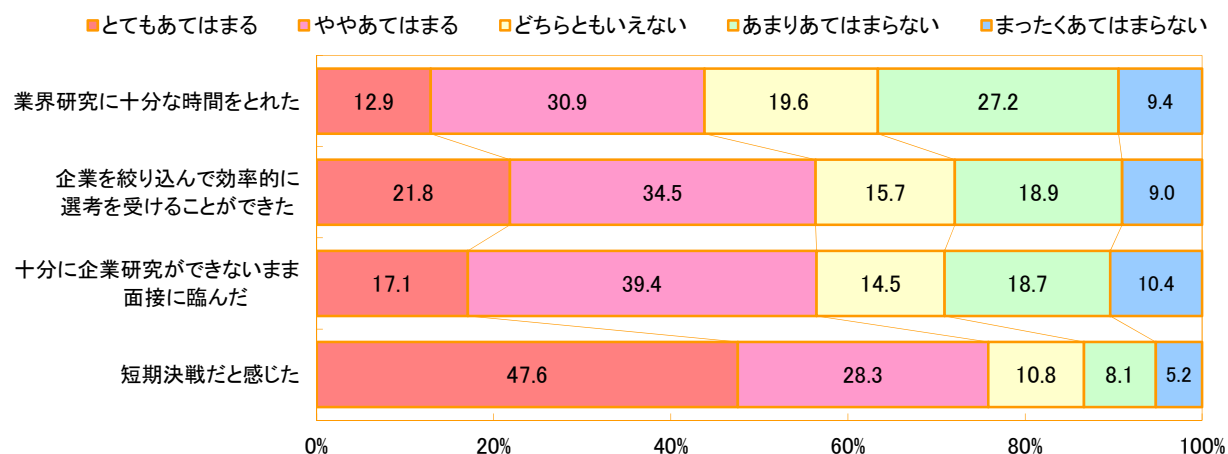
8. 選考時期の前倒しで生じたこと

新卒採用の日程は近年見直しが続き、2年連続での変更となった。今年は企業の採用広報の開始は3月のまま選考解禁が8月から6月へと前倒しされた。就活期間が2カ月短くなったことで、学生にどのような影響があったのかを調べた。

日程圧縮で企業研究等の時間が短くなったが、「業界研究に十分な時間をとれた」という学生は意外にも4割を超えており(43.8%)、そうでない学生(36.6%)を上回った。また「企業を絞り込んで効率的に選考を受けることができた」という学生が半数を超えている(56.3%)ことから、早い時期に志望業界・企業を絞り込んだ上で戦略的に準備をしていた学生が少なくなかったことが推測できる。

一方で、「十分に企業研究ができないまま面接に臨んだ」という項目にあてはまると回答した学生も過半数に上り(56.5%)、短期間に面接が集中して対応が追いつかなかった面もあるようだ。ざぱり「短期決戦だと感じた」については75.9%の学生が「あてはまる」と回答し、今年就職活動を行った学生の大半が、短期決戦を実感していることが浮き彫りになった。

選考解禁の繰り上がりにより、自分自身に生じたこと



■スケジュールへの意見

○締め切りが早く、十分に準備ができなかった企業が多々あった。学生、企業双方のためにも選考活動は余裕をもって行うべき。
 <文系男子>

○期間が短くなったので、1日に複数の企業の面接を受けるなど、スケジュールがかなりタイトになった。
 <理系男子>

○短期決戦ではあったが、その分集中して就職活動を行えたので、個人的には今年度のスケジュールに満足しています。これ以上期間が長くなると精神的につらくなっていくと感じました。
 <文系女子>

○短期決戦の今年の日程では、あきらめなければならない企業が多く、WEB説明会や複数日程の選考会のありがたみを強く感じました。
 <文系男子>

○企業によっては、他の企業の日程を参考にしてから選考の日程を決めているところがあり、予定が立てにくかった。
 <理系男子>

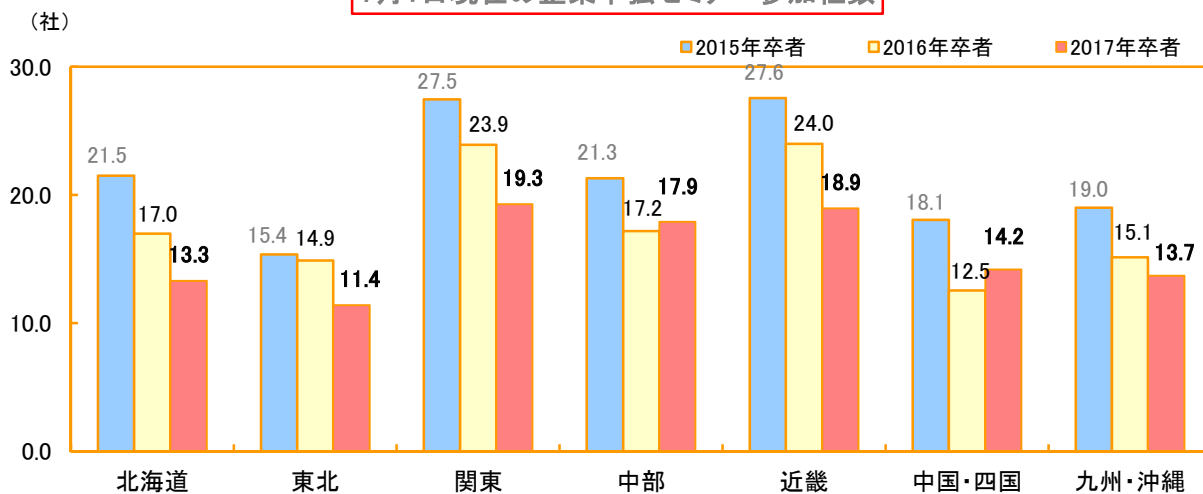
○概して、早く動いた人ほど早く内定を得ている。のんびりしていた人は、細く長く就活が続いて、大変そう。
 <文系女子>

○3月までに志望業界をある程度絞り込むことができたかどうか、重要だと感じた。
 <理系女子>

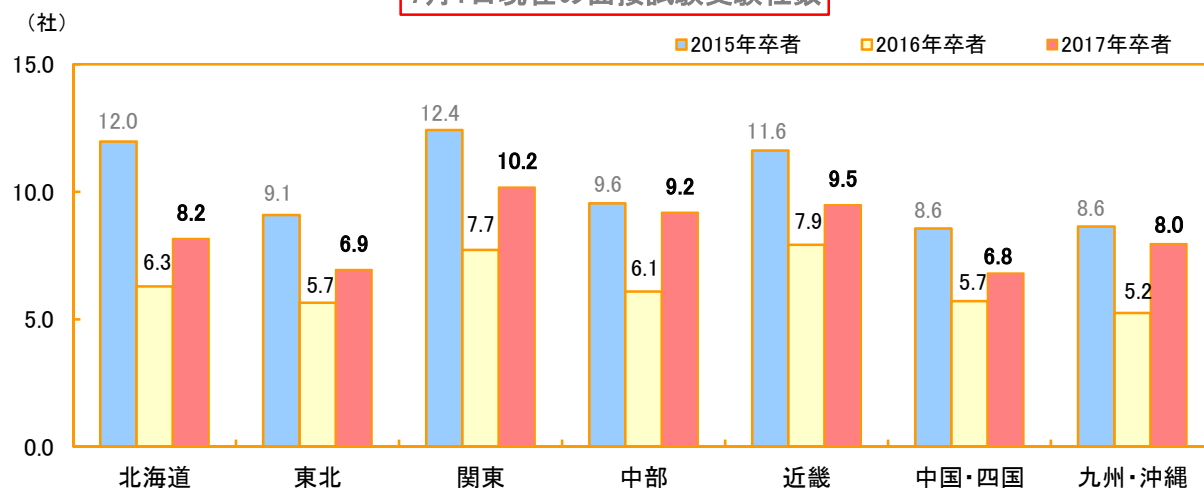
○どの会社が自分に合うのか考える時間がなかった。内定をいただいて就職先を決めても、本当にこれでよかったのか、断ってしまった会社の方が自分に合うのではないかと悩んでいるし、経団連の都合に振り回されていると感じた。
 <文系女子>

参考データ

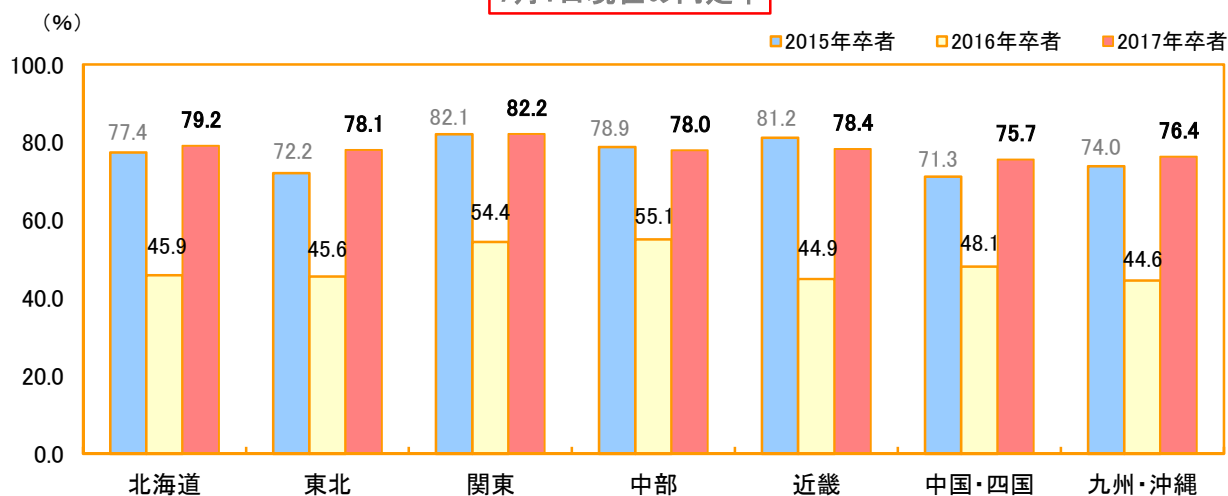
7月1日現在の企業単独セミナー参加社数



7月1日現在の面接試験受験社数



7月1日現在の内定率



【回答数】

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
2017年卒者	48	64	561	150	273	74	72
2016年卒者	61	79	608	156	285	79	92
2015年卒者	62	79	520	161	250	80	96

(人)